日新地区だより　20号

ゆめにっしん

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っている。

発　行：誇りと夢・まちづくり日新広報部会
文京5－1－8　日新公民館
発行日：2011年12月20日

日　新
苟日新　苟に日に新たに
日日新　日々に新たに
又日新　又日に新たなり
出典「大学」

『伝えるチカラ』

ゆめにっしん20号発行記念研修会

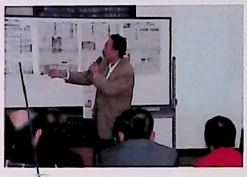
「ゆめにっしん20号」発刊記念として、11月26日広報部会では、ゆめにっしんのレベルアップと地域団体の情報発信の向上を願って、福井新聞社・政治部長 森瀬明氏（乾徳4在住）による『伝えるチカラ』と題したご講演をいただきました。

共同通信社に出向されていた頃に番記者として、安倍元総理あるいは野党の大物代議士などに張り付いていたときのお話や、今年3月の東日本大震災においては「伝える」という原点が問われたこと、全ての機材が使えなくなってしまった石巻の「日々（ひび）新聞」は、手書きによる壁新聞で地域の人々に情報を提供し「紙の存在価値」が見直されたことなど・・・。日頃の私たちには見過ごされてしまうような話を時間いっぱい盛り沢山に聞かせていただきました。

最後に地域の事を伝えるチカラ、即ち地域のチカラ（宝）を掘り起こすという点では地方紙も地域のミニコミも同じですと結ばれました。このお言葉に、勇気100倍！「鳥の目（中央目線）、虫の目（地域目線）」で、身近な地元のニュース、情報を届けなければ・・・、紙とペンさえあれば伝わる！と心改まる思いでした。

今回参加いただいたのは、日新地区内の各種団体の広報関係に携わる方々でしたが、それぞれ今後の活動の糧にしていただけたことと思います。ご参加有難うございました。

（参加者43名）　　（村上）



手書きの「日々（ひび）新聞」

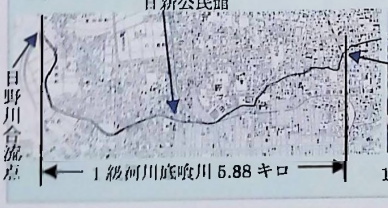
底喰川　その7

—底喰川ウオーク・底喰川源流を訪ねて1—

底喰川の生い立ちは「弥生時代に自然発生」、とドラゴンリバー交流会事務局長の木幡雅好さんは最初の館内研修で説かれた。弥生時代（紀元前3世紀～3世紀ごろ）に日本の稲作農業は始まった。稲作には水は絶対に必要であり、また使った水が不要になれば捨てなければならない。この用をなしたのが底喰川であると。ひとりでにできた・自然発生の灌漑、排水用の川であったろう、と説かれた。がしかし、その底喰川はどこから流れているのか？芝原用水からだろうか？九頭竜川だろうか？市内の中心部を流れてきているということだけは分かっているが、どこをどのように流れてきているのかはあまり知られていない。

多くの方々に知っていただくには自分の身体で、自分の目で確かめてもらうのが最善である。日新公民館から底喰川に沿って歩こう。底喰川ウオークしよう。そして底喰川の「おおもと」を知ろうと。

（西）



1級河川底喰川起点の標示

わがまち匠

大注連縄作りの達人

八ツ島白山神社　奉賛会長
高橋定信さん（67）大宮5

八ツ島白山神社では、拝殿に掲げられている大注連縄（おおしめなわ）を、年末毎に新しいものに取り替えています。

今年も注連縄作りは、氏子２０名が参加して行われました。

高橋さんの話によると、最近では、機械刈りや品種改良で稲の長さが短くなり、丈の長い藁を求めて、古代米を栽培しているなど苦労も多いという。注連縄の中でも、拝殿に掲げる大注連縄作りは、数人が役割を分担し、心を一つにして編んでいく。注連縄作りでは一番難しく、高橋さんの指導にも一段と力が入る。

作業開始後１時間余り、直径約２０㎝、長さ約３ｍの立派な大注連縄が出来上がりました。質感、素朴さ、綯(な)われた美しさ、力強さはまさに民芸作品そのもの。

昨年作られた大しめ縄

しかし、一方では、指導者の高齢化も・・・。

「自分も先輩から教わったもので、この伝統文化の火を消さないよう次の世代に引き継ぐことが私達世代の責務だと思っています。」　高橋さんの言葉には伝統文化継承への強い思いがにじんでいました。

※12月4日、注連縄作りと「どんど焼き」の飾りつけ作業の現場を広報部員3名が取材させていただきました。

（友田）

日新春秋

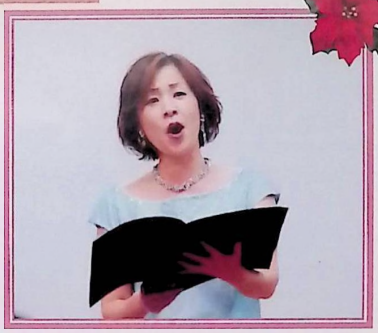
いくつもの目で育つ子ども

▼みんなが自分のことを気にかけてくれる、自分のことを大事にしてくれている…こういう愛情を中学生がいつも感じていることはとても重要です。思春期を上手に通り越せるかどうかは、この愛情の有無にかかわっています。▼本校は、9月から校舎内にPTA室を新設して本校の2年生の保護者のウエルカムサロンとし、ここを拠点に学校を開放し、生徒の様子を常時見てもらうようにしました。1年生ではミニ複数担任制をとり、教員の多様な目で生徒達の良いところを伸ばすことにしました。▼地域の子どもは地域で育ちます。沢山の目が注がれてこそ社会と繋がる自分を意識し、人格が創られていきます。そう言う意味で、地域のみなさんには学校へ生徒の様子を見に来ていただきたいと思いますし、生徒達も地域へ出て行く機会を増やさなくてはならないと考えています。▼本校の吹奏楽部が、公民館、児童館、小学校へ出かけ、要望に応じた編成で演奏披露を行うプロジェクトを始めました。美術部も冬休みに児童館などに出かけ、紙芝居やお絵かき教室、工作教室を開こうと準備をすすめています。▼また、PTA室へお茶を飲みに来て下さい。そして、生徒の学習の様子を見ていって下さい。

藤島中学校　加藤正弘

10月1日　公民館でぱれっとサークル主催のファミリーコンサートがありました。
素晴らしい3人の演奏家をご紹介します。

わがまち音楽家特集



中村直子さん（ピアノ）

ソプラノの川崎さんとはご近所同士の縁で曲の伴奏をするなど仲良しです。自宅で「ヴィヴァーチェ・ピアノ教室」を主宰。
武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。全日本ピアノ指導者協会（PTNA）会員。

川崎美砂子さん（ソプラノ）

仁愛女子高校音楽科・仁愛女子短大音楽学科講師の他、夫君の川崎隆夫氏が代表をしている「ふくい E オペラプロデュース」に所属し、「フィガロの結婚」や「泣いた赤おに」の公演に参加。また11月には女性四重唱「シャン・ジレ・ルージュ」のメンバーとしてあわら市民音楽祭に特別出演するなど多彩な活動をされています。日新小近くの新居へは20年3月からの入居ですが、ご近所との交流も楽しく、県外へ出かけても「早く文京5丁目へ帰りた～い」と思うほど。ふたりのお子さんも音楽大好きの音楽一家です。

坪井大典（まさのり）さん（チェロ）

6歳から始めたチェロで、第60回県音楽コンクール弦楽部門知事賞、「'07・越のルビー音楽祭　若い芽コンサート」出演など、演奏家としての活躍はすでにめざましい。世界的チェリスト、ヨーヨーマに魅せられて、今後は海外での勉強も始めるとのこと。家庭では母（ピアノ）、弟（バイオリン）と共に「あそぶ」こともあるとか。曲目の紹介や落ち着いた話しぶりにも豊かな才能を感じます。
県立藤島高校3年。　乾徳3在住。

誇りと夢・わがまち創造事業

交通部会　－アンケート－

コミュニティバスについて、住民からのアンケートでは平成22年度には全戸配布にて313人より回答を頂いた。23年は敬老会出席者181人から高齢者ならではの貴重なご意見を、挙手で答えて頂きました。
アンケート結果については今後の活動に生かしていきたいと思います。

【コミュニテイバス　アンケート結果（対象人員　75歳以上　181人）】

1　1週間に1回は出かける所

①	病院	54人	30%
②	大手の病院	9人	5%
③	近くのかかりつけ医者	46人	25%
④	買物に出かける	85人	47%
⑤	自分で買物がしたい	110人	61%
⑥	金融機関に行く	26人	14%
⑦	趣味に出かける	52人	28%

2　日新地区を巡回するバス

①	巡回するバスがあったら家族に頼らず出かけたい	66人	37%
②	巡回するバスがあったら出かける回数が増える	52人	28%
③	天気、気候がよければ出かけたい気持ちがある	79人	44%
④	巡回するバスがあったら是非とも利用したい	64人	35%

環境部会　－布ぞうり作り－

環境部会では、エコへの取組みを進めてますが、昨年に引き続き今年もリサイクルを考えようと「布ぞうりの作製体験」を行いました。

今年は、昨年の経験を生かして、事前準備としてぞうりのできるまでの過程を見本とした教材を作成、理解の得やすいようにと心がけました。講師に、昨年の体験者である、当地区の水上淑江さん・稲木キヨ子さん・高橋定信さん、そして応援に駆けつけていただいた西川光雄さん・阪井喜多子さんの協力を得て実施しました。

参加者は32名で、約3時間真剣そのもの、出来映えはかなりのもの。「来年も是非続けてほしい」「もっと回数を増やしてほしい」の要望や今回だけで終えるのは惜しいなどの声が多く出されました。部会では、こうした声を大切にすることから、今後さらに充実した企画となるように検討していきたいと思います。

ステキにできました！

わがまち新里自治会

日新小学校の南側、上里地区の南西部に位置し、ゲンキーとくすりのアオキという2つのお店があるため、比較的人の行き来が多い地域です。新里自治会は、昭和48年頃に、当時の上里町内会の戸数の急激な増加に伴い、新しく新里町内会として独立しました。当時は西藤島町内連合会に加入していましたが、昭和51年の日新小学校設立によって日新地区となりました。

自治会としては年始に総会や婦人部の新年会などが行われています。また、文里連合会に所属しており、地区体育大会や文里夏祭りなどにも積極的に参加しています。今年の秋祭りでは神輿の巡行などもあり、普段は静かな町内も、この日ばかりは太鼓の音や神輿のかけ声で賑やかになりました。そんなわが自治会ですが、発足当初は少なかった世帯数も最近40世帯を超えるようになりました。
ここ数年は若い世帯が増えつつあり、これからが楽しみな状況です。

そういう私も、35歳と自治会長の中では若い方なので、これからの自治会活動を盛り上げていけたらなと思っております。　自治会長　林　健二

文化部会　－公民館まつり前日祭－

今年の公民館まつり前日祭の底喰川ウオーク、天候は曇り空で始まりました。少しマンネリ化の傾向があると言う意見もあり、上里ポンプ場の見学を初めてコースに組み込みました。150名近くの参加者のうち約7割程の人が、市職員の藪下さんの案内でポンプ場内を3階まで見学しました。また、散歩ガイドには簡単なクイズを入れてみました。
それから今年はウオークが今までとは逆回りになり、公民館の前を素通りして川の対岸を歩いて西福井乾徳橋を渡りゴールに到着となる道順になりました。
着いてからは抽選会と手作りそばで大いに盛り上がり、楽しいウオークになったと思いました。反省点としては行列が長く伸び過ぎになったところです。来年も盛大に実行したいと思います。

おいしいおそばも大好評！